

第1回部会ワークショップ結果の 取りまとめについて

第1回しごとづくり部会の概要

<概要>

日時：令和元年7月12日（金）14：30～17：00

会場：市民プラザ第2会議室

WS参加者：15団体22人

部会長：上越商工会議所 総務課庶務係長

<ワークショップの様子>



<部会長コメント>

- ・首都圏からのIT企業進出や新たな工場誘致により雇用の場が増加したことは、部会で掲げた目標に大きく貢献。
- ・一方、製造・建設・サービス業で人手不足が顕在化。
- ・そんな中、若い人の「望む職種がない」、企業の「就職しても定着しない」といった雇用のミスマッチが見受けられた。
- ・今後は若い人のニーズに対応できる雇用の場の確保、結婚・出産・子育てがしやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職	グループ
1	上越商工会議所	事務局参事	A
2	新潟県上越地域振興局	企画振興部副部長・労政課長	
3	株式会社大光銀行	地域産業支援部 調査役	
4	株式会社大光銀行	地域産業支援部 調査役	
5	上越市	福祉課 課長	
6	上越市	農政課 副課長	
7	えちご上越農業協同組合	営農部 次長	B
8	上越信用金庫	常勤理事 総合企画部 部長	
9	株式会社八十二銀行	融資課長	
10	東京海上日動火災保険上越支社	副主任	
11	上越市	観光交流推進課 副課長	
12	上越市	農村振興課 課長	
13	上越公共職業安定所	次長	C
14	金谷北地区農村元気会	会長	
15	株式会社北越銀行高田支店	副支店長	
16	株式会社オアシス	取締役副社長	
17	上越市	産業政策課	
18	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター 北陸研究拠点	農業技術コミュニケーター	
19	金谷北地区農村元気会	イベント担当	D
20	新潟県信用組合	高田支店長	
21	上越地域活性化機構	事務局員	
22	上越市	産業立地課 副課長	

<主な良かった点、成果があった点>

- ・ 製造業、介護・サービス業など、市内に雇用の場所はある。
- ・ あるるん村、太陽誘電 → 企業を増やすことができた。
- ・ 創業支援ネットワーク → 創業数の増加。
- ・ 企業の発展支援 → 雇用（従業員確保）に力を入れている。
- ・ 雇用の場 → 直江津の工場や製造業はポテンシャルが高い。
- ・ 障害者の就労施設（15施設）のネットワーク化を行ったことにより大きな仕事を受注できるようになった。
- ・ 上田市、甲府市と三国同盟をつくり、相互訪問等を実施。
- ・ H30直江津港の取扱いコンテナ数が過去最高。
- ・ 事業者間の連携が生まれ、スムーズに事業を進められた。
- ・ まちづくりに関する意識が醸成された。 他 10 件



市内の新たな雇用の創出につながった等の意見が出された。

<主な反省点、課題>

- ・ 働く人が不足している。市内企業への定着率の低さ。スキルを持っている人の確保が難しい。
- ・ 建設業の人手不足。
- ・ 経営者が高齢化しているが、事業承継がうまくいっていない。
- ・ 仕事のミスマッチ。
- ・ 雇用につながる戦略的な取組が必要。
- ・ 港湾の職業を若者に知ってもらいたい。
- ・ 新規就農者に対する支援が必要。
- ・ 大きな成果にはまだつながっていない。（道半ば）
- ・ 他団体との連携ができなかった。
- ・ 地方創生推進事業補助金終了後の不安。 他 18 件



「担い手」不足、高度人材の確保、雇用のミスマッチが課題という意見が出された。

次期戦略で推進する取組(しごとづくり部会)

<特化産業の強力推進に関する主な意見>

- ・若者が就職を望む情報通信系の企業誘致。
- ・大企業の誘致は、中小企業の人手確保と競合するため、誘致は慎重にすべき。
- ・地元でがんばっている企業に対して支援を行う。
- ・製造業の若手の採用・育成定着を促進。

他 5 件

⇒特化した産業の推進の観点（製造業の発展や情報通信系企業の誘致、地元企業への支援等）

<多様な雇用機会の創出に関する主な意見>

- ・高校生に対して企業PRや紹介する仕組みが必要。
- ・働きながら子育てするために、市街地における年度途中の保育園入園枠の確保。（市街地から周辺部では入園できる）
- ・女性が働きやすい農業環境づくり。
- ・テレワークの業態もあり得る。
- ・農業とIT、自然とITといった業種間の連携を考えていく必要がある。
- ・創業支援の取組強化。

他 6 件

⇒女性の新しい雇用、テレワーク、業種間連携の観点

<その他の意見>

- ・核となる団体、人に対する特別な支援。
- ・地域の歴史やそれに関わり支えている人たちをピックアップして大きくしていく。

他 3 件

⇒特定の「団体」「人」に焦点をあてる観点

第1回結婚・出産・子育て部会の概要

<概要>

日時：令和元年7月16日（火）14：30～17：00

会場：市民プラザ第3会議室

WS参加者：10団体18人

部会長：新潟県立看護大学 副学長

<当日の様子>



<部会長コメント>

- ・よそから見ると気づくことがある。
- ・情報発信は、紙ではなくネット上で発信することが必要（特に高校生への情報発信）
- ・人口減少社会の中では、女性にとって安心して子育てができるまちでなくてはならない。
- ・大事なことは、自ら実践すること。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職	グループ
1	えちご上越農業協同組合	営農部 地域ふれあい課 課長	A
2	上越信用金庫	総務部 次長	
3	上越助産師会	上越助産師会 会長	
4	上越市	共生まちづくり課 男女共同参画センター長	
5	上越市	産業政策課 副課長	
6	上越市	こども課 課長	
7	新潟県上越地域振興局	健康福祉環境部参事・地域保健課長	B
8	マミーズ・ネット	理事長	
9	しゅしゅクラブ	代表	
10	上越市	健康づくり推進課 上席保健師長	
11	上越市	教育総務課 副課長	
12	まちづくり市民大学OB会	代表	C
13	公立大学法人新潟県立看護大学	教務学生課長	
14	平安セレモニー株式会社	主任	
15	マミーズ・ネット	理事	
16	しゅしゅクラブ	直江津リーダー	
17	上越市	保育課 副課長	
18	上越信用金庫	大学前支店 支店長	

<主な良かった点、成果があった点>

- ・各種検診等の実施で、国民健康保険医療費の縮減につながった。
- ・子ども医療費助成の拡充 就学前児童の完全無料化を実現した。
→子育て家庭の経済的負担の軽減につながった。
- ・出会いの場イベントの参加者が増えている。
- ・人口減が問題であるという認識の人が増えた。
- ・当協議会の活動により、多くの団体や事業者の人が一緒になって活動に取り組んだ。
- ・地方創生推進事業補助金を活用して、子育て支援がテーマのイベントを実施し、その後補助金なしで継続できている。参加者も増えている。

他37件



各種の取組が前向きに推進している意見が多数

<主な反省点、課題>

- ・出会いの場づくりの取組が不十分。
- ・出会いの場事業でカップル成立もしているが、広報に課題があり集客が難しい。
- ・学校卒業後に上越を離れてしまって、戻ってこない人の対策。
- ・若い女性が帰ってくるのがどんなに重要かを地域の人が理解しているか。
- ・女性の就業割合を高める、有能な女性の雇用の場の確保。
- ・ワークライフバランスが本当に浸透しているのか。
- ・女性に子育ての負担が偏りがちで、それが改善しきれていない。
- ・協議会の中で、他分野の団体の活動がよく分かっていない。
- ・市民が主体となって動ける体制づくり。

他23件



雇用の場、子育て負担、Uターン等女性に関する課題や、出会いの場づくりに関する課題の意見が出された。

次期戦略で推進する取組(結婚・出産・子育て部会)

<出会い、結婚に関する主な意見>

- ・とにかく出会い、結婚がないと出産・子育てに続かない。
- ・出会いの場には、企業間の交流が必要。
- ・出会いの機会作りは必要だが、婚活が前面に出すぎない「仲間づくり」が重要。
- ・男性のコミュニケーション力の向上が必要。
- ・出会い、結婚に取り組む団体や企業にもっと補助があつてよい。
- ・出会いの場づくりは民間任せではなく行政主導で。(委託を含む)
- ・いろいろなメニューで出会いの場を作る。

他 4 件

⇒自然な出会いの場を創出する観点

<ワークライフバランスに関する主な意見>

- ・(子育てしながら働ける)企業の支援、制度の促進、拡充。
- ・経営者の考え方の改革、啓発。
- ・子育ての負担が母親だけに片寄らないように各世代が考える機会をつくる。
- ・第1子出産後に女性が仕事を辞めなくてすむような仕組みづくり。
- ・辞めてしまっても再就職ができるような仕組みづくり。
- ・いかに地域で子どもを育てる意識を企業に持ってもらえるか。
- ・病児保育の拡充。

他 15 件

⇒子育てに関する企業への理解醸成の観点

<その他>

- ・若年層の楽しみや生きがい、娯楽が必要。(子ども抜きで親が楽しめるような)
- ・人口は減るといふ現状を市民に知ってもらい、どういう市にしていきたいかを考えていく機会をつくる。
- ・産科、小児科、医療の存続。
- ・看護職の再就職の支援強化。
- ・医師、看護師等のやりがいなどを中・高校生に発信、PRする。
- ・高校生の一日看護師体験を広くPRする。
- ・医学生、看護学生等の実習受入を促進し地域を知ってもらう取組を推進。

他 4 件

⇒医療系の職場に関する就職・再就職に関する観点

第1回まちの活性化部会の概要

<概要>

日時：元年7月12日（金）14：30～17：00

会場：市民プラザ第3会議室

WS参加者：31団体39人

部会長：上越教育大学 准教授

<ワークショップの様子>



<部会長コメント>

- ・上越は、地域資源はあるが、人とお金と戦略がないことが全体像として見てきた。
- ・人口減少を前提とした場合、住民参画を増やしていかなければならない。
- ・住民参画を戦略的にどう増やしていくか考えると、情報発信に行きつく。
- ・発信内容、発信者、発信先を戦略として考えていかなければならない。
- ・根底にあるのは、上越だからこそ発信できるものは何かということ。
- ・地域の中だけではなく、外部の意見を取り入れることが大切だ。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職	グループ
1	新潟県上越地域振興局	企画振興部地域振興課長	A
2	新潟県信用組合	春日山支店長	
3	商工会議所政策委員会(大島G)	事務局	
4	株式会社 北信越地域資源研究所	取締役	
5	くびきのお宝のこす会	会長	
6	北越急行株式会社	営業企画部長	
7	上越市	交通政策課 課長	B
8	上越信用金庫	営業統括部 部長	
9	城下町高田花ロード実行委員会	代表	
10	高田誓女の文化を保存・発信する会	理事(事務局)	
11	雁木のまち再生	理事	
12	しゅしゅクラブ	代表	
13	上越市	自治・地域振興課 課長	C
14	上越市	高齢者支援課 課長	
15	上越信用金庫	総合企画部 副部長	
16	上越観光案内協会	会長	
17	街なか映画館再生委員会	代表	
18	南本町三丁目まちづくり協議会	事務局	
19	しゅしゅクラブ	直江津リーダー	D
20	上越市	共生まちづくり課 課長	
21	上越市	都市整備課 課長	
22	上越市町内会長連絡協議会	副会長	
23	かみえちご山里ファン倶楽部	事務局	
24	JR東日本鉄道OB会直江津支部	副支部長	
25	上越市	文化振興課 課長	E
26	雪だるま財団	チーフスノーマン	
27	上越をわくわく楽しみ隊	代表	
28	寺野の自然と暮らしサポートセンター	事務局長	
29	お馬出しプロジェクト	事務局	
30	えちごトキめき鉄道株式会社	経営企画主任	
31	株式会社上越タイムス	常務取締役・事業局長	F
32	上越市	社会教育課 課長	
33	株式会社第四銀行高田支店	営業一課 課長	
34	高田本町まちづくり株式会社		
35	株式会社 地域創造研究所	企画部長	
36	越後高田・雁木ねっとわーく	幹事	
37	株式会社頸城自動車	乗合部長	
38	上越青年会議所	財政局長	
39	上越市	産業政策課(商業・中心市街地活性化推進室) 室長	

総合戦略の振り返り(まちの活性化部会)

＜主な良かった点、成果があった点の意見＞

- ・各種まちづくり団体の活動が活性化した。
- ・仲町の活性化、百年料亭宇喜世の取組、灯の回廊等の新しいイベント等が生まれた。
- ・月刊上越と特産品の通販カタログの配送で1万5000人とつながった。交流人口増、関係人口増の視点が大事だと思う。
- ・「食育」「発酵」を市民や子どもたちから聞く機会が増えた。
- ・新水族博物館「うみがたり」の整備により、直江津に来訪者が増えた。
- ・参加者、主催者、行政が地方創生をテーマに活動を広げる事ができた。
- ・新しいつながりが生まれ、様々な団体との連携により事業展開ができた。
- ・新しい視点の話題に接することができた。
- ・協議会参加者から団体の課題を知ってもらうなど、交流ができた。
- ・各地域の色々な事業者、団体の取組を知り、より地域に愛着を感じる事となった。
- ・行政と意見交換を行ったことで、情報を知り、課題への理解を深めることができた。

他 80 件



新しい取組、新しい連携・交流が生まれている意見が多数

＜主な反省点、課題の意見＞

- ・人口減少に伴う人手不足。
- ・若者の担い手が育ってこない。
- ・地域への愛着醸成のイベントを開催し、参加してもらうことはできたが、市民から日常的に地域に愛着をもってもらうことまでは至らなかった。
- ・住民意識は相変わらず受身。(誰かが、行政がやってくれる)
- ・これからは参加者と協働でできることが大事。
- ・若い人を集客したい。
- ・同じ人達だけの参加で、新しい出会い、関わりができない。
- ・新水族博物館の来訪者を市内回遊に生かし切れていない。
- ・バス路線の再編は、経由地が増え目的地まで時間がかかる。
- ・30年で25%人口減は悪いことか、将来評価をすべき。
- ・補助金がないと実施できない事業もあり活動内容が縮小。
- ・補助制度は大いに不満。民間で活性化事業を継続は困難。必要額の助成制度を新設すべき。
- ・地方創生推進事業補助金は、団体に資金源がないと1/2の自己負担は苦勞する。

他 55 件



担い手（後継者、まちづくりへの参画）やお金が足りないこと、稼ぐことが課題という意見が出た。

次期戦略で推進する取組(まちの活性化部会)

＜多様な地域の取組推進に関する主な意見＞

- ・若者によるSNS等を使った情報拡散が必要。
- ・地域資源をいかす。(市全体を意識しつつ、各資源の個性を残していかす)
- ・様々な団体が集まる場づくり、団体同士の自然なつながりの中から連携が生まれるとよい。
- ・地域内の多様な周遊ルートをつくり、集客する。(年齢、興味、食文化)

他 2 1 件

⇒情報発信、域内交流の場づくりの観点

＜その他の主な意見＞

- ・長野からの誘客を狙う。(海、釣り等)
- ・事業継承、M&Aへの積極的な取組。
- ・13区を知ることから始めて、行き来すること。
- ・リーダーの育成。(まとめられる人)
- ・自動運転の公共交通の実証特区。
- ・二次交通の確保や整備。

他 1 4 件

⇒13区を含めて地域を知ること、リーダーの育成に関する観点

＜地域への理解・愛着向上に関する主な意見＞

- ・「参加」ではなく、「参画」「楽しんで取り組む」という意識を持つことが重要。
- ・個人が各々で取り組むのではなく、全員が一斉に大きな力を発揮できるよう意識して取り組む。
- ・高校生向けの地元優良企業を情報発信し、市内でも豊かなくらしができるということを知らせる。
- ・中高生の親を巻き込み、親子ともに上越に愛着を持ってもらう取組を行う。
- ・中学生と地域の人々との交流。大人と子どもの話す機会が大切。

他 2 8 件

⇒まちづくりへの参画、中高生やその親へのアプローチの観点

<しごとづくり部会>

- ・市内企業を学生にPR。親が子どもに対して、市内にはよい企業がたくさんあるということを自信を持って言える環境を作る。
- ・まちの活性化や観光とも連動し、上越市の良さを子どもたちに伝え、上越市に戻ってくるような環境を作る。
- ・同窓会への補助によるUターン推進と情報発信。

他 1 1 件

<まちの活性化部会>

- ・団体の活動に、若者に参加してもらえるような仕組みを考える。
- ・交流人口、関係人口の増加を目指す。
⇒東京在住の上越出身者は20万人、新潟県出身者は230万いるので、有効なターゲット。(コメントママ)
- ・生活交通の確保。
- ・参加から参画へ。(住民意識の改革)
- ・イベントや各種事業への高校生の活用。
- ・地域のSNS、インスタ等による情報発信。

他 1 8 件

⇒Uターン(特に女性)に焦点をあてる観点

⇒若者(特に高校生)・転出者とのつながりに関する観点

<結婚・出産・子育て部会>

- ・「若者が集える場」内のLINEグループをつくる → 卒業後もつながれる。
- ・若年者への地元企業の情報発信。(特に高校生への情報発信)
- ・空き家の情報をしっかり出す。
- ・Uターンと嫁ターンの強化。
- ・上越市に縁がある人たちに戻ってきてもらうことが重要。
- ・若い女性が帰ってきたくなるようなまち、職場づくりが必要 → 若い女性の賃金を上げる。
- ・高校生までの段階でいかに地域を楽しめるか。そして、一回外に出ても上越に戻ってこようという気持ちを醸成できるか。
- ・若者が集まって話し合う機会をつくる。(若者会議)
- ・若者主体の地域参画。

他 1 4 件